

Charcas

藤沢の魅力を発信する情報誌チャーカス

★Charcas(チャーカス)はcharm(魅力)とcasket(玉手箱)の造語です。

Vol. **6**
縄文編
Mar.2026

COVER
野焼祭 - 窯
火入れ前の窯の様子

繫 style

- 特集 -

祭を未来へ繋げる
ツナグスタイル

1. 日常から縄文の炎を感じる

青葉屋「野焼まつり」

食堂オアシス(岩手サファリパーク)「縄文の炎ピリ辛味噌ラーメン」

いとう屋「縄文グッズ」

椿園「塩野椿」

2. 祭りの土台。作りあげるのは協働の精神

3. 一夜限りの聖地と現代の縄文女人

4. 藤沢で店を始めたきっかけと、今後の目標

ガーデンカフェ kirara / ほしのほほえみ / うんぬん

5. 藤沢の方言・地名クイズ

Charcas 縄文編

Mar.2026

特集

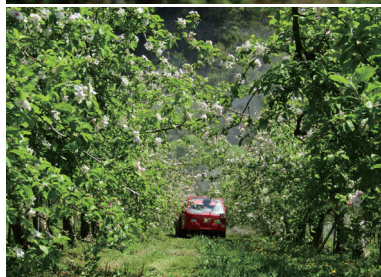
祭を未来へ繋げる

発行・編集 藤沢町住民自治協議会
〒029-3405 岩手県一関市藤沢町藤沢字仁郷 12-5 / ☎0191-63-5515 / Fax 0191-63-5517



阿部農園

5月の下旬 可愛らしいリンゴの花が咲き誇る
— 藤沢町藤沢字舟木247



編集後記

「チャーカス」縄文編
発行に当たって
藤沢町住民自治協議会
会長 星 義弘

今号の特集テーマは「祭を未来へ繋げる」です。ページをめくるごとに、私たちの町・藤沢に脈々と流れる「情熱の足跡」を感じていただけたのではないのでしょうか。

巻頭で紹介した「塩野椿」のエピソードには、今の私たちに必要なヒントが隠されています。専門家の「育たない」という予測を、藤沢の暖かな風土と知恵、地力で覆した物語。それは「ないものを喚くのではなく、今ある豊かさを信じて形にする」という、野焼祭の原点とも重なります。

特集後半では、祭りを支える実行委員会の皆さんの「今」の奮闘や、藤沢の魅力に惹かれて新しくお店を構えた方々の活動をお届けしました。時代と共に形は変わっても、この町に流れる「温かさ」や「挑戦する心」は、しっかりと次世代へバトンタッチされています。

誌名「チャーカス」が意味する、魅力が詰まった「玉手箱」のように、藤沢にはまだまだ語り尽くせない物語があります。塩野先生や先人たちが愛したこの町の魂を、皆さんと共に楽しみながら、未来へ続く地域づくりに活かしていきたいと意を新たにしました。



縄文の炎 - 眺める
 パチパチと静かに揺れる炎や祭を動画で体験ができます。



祭りの中央に構える「縄文の炎」



岩手県一関市藤沢町で毎年8月の第2土曜日に開催され、2026年には49回目^{のやきまつり}を数える「野焼祭」

この祭りの中心で燃え盛る「縄文の炎」は古里の再生を願う人々の熱い想いを象徴しています。



「広報ふじさわ」毎年9月号は野焼祭特集



4 5 藤沢町商店街には軒先に作品が並ぶ 6 支所前には「縄文ミュージアム」として数点を展示



館ヶ森高原ホテルにて
 1 縄文野焼賞 2 池田満寿夫賞
 3 暖炉の前に鎮座している

今回のチャークラスでは、祭りを未来へ繋げるために協働で奮闘する「祭りの立役者」たちに迫ります。

そして、岡本太郎氏、池田満寿夫氏、辻清明氏ら、芸術の世界に於ける錚々たるメンバーを魅了した「現代の縄文人」とは一体何でしょうか？

いったいどのような人々が成功を支えているのでしょうか。

非日常的な光景が生み出されるこの祭りは一朝一夕で完成するものではありません。華やかで神秘的な祭りの裏側では、

を美しく彩ります。
 今から半世紀程前、過疎再生に奮闘する住民・地域・行政が協働で挑み、現在まで続く祭りの歴史が始まりました。

祭りの中心で燃え盛る「縄文の炎」その周りを囲むように、野焼作品が焼かれており一基から九基まで窯が設置されました。そこから立ち上る炎が、夏の夜空を美しく彩ります。
 野焼祭誕生秘話は、廃刊した広報ふじさわに記され、20周年記念誌や40周年記念誌などにも記載されています。

1975年、藤沢焼窯元の本間伸一さんは「これといった祭りのない藤沢町で、人を呼び、感動できる祭りにはできないものか」と模索。翌76年、実践考古学者の塩野半十郎さん（故人）が本町に足を運んで、古代縄文式野焼きを用いた祭りを提唱し、藤沢野焼祭が誕生した。

「広報ふじさわ2009年9月号」より



ピリ辛は見た目ほど辛さを感じず程よい



祭り当日以外にも
縄文を感じる



中身は白あんが入っている



園内にある野焼祭作品

祭りのシンボル「縄文の炎」をいつでも感じられるようにと企画・開発されたのが「縄文の炎激辛味噌ラーメン」です。このラーメンは、岩手サファリパークの食堂で味わうことができます。辛さの奥にマイルドさがあり、食が進む一杯です。辛さは「ピリ辛」と「激辛」から選べます。また、園内には、野焼作品が展示されており、訪れるたびに野焼の熱気と雰囲気を感じられるようになっています。



食堂・軽食コーナーで提供



青葉屋 製造責任者 熊谷公吉さん

縄文の炎をいつでも味わう
**縄文の炎ピリ辛
味噌ラーメン**

場所 食堂オアシス
(岩手サファリパーク内)
藤沢町黄海山谷 121-2

半世紀続く定番菓子
野焼まつり

場所 青葉屋
藤沢町藤沢字町 95

「藤沢のお土産」と聞いて、まず頭に浮かぶのが、青葉屋の銘菓「野焼まつり」ではないでしょうか。縄文土器が描かれたパッケージ、銀紙に包まれた、ほどよい甘さの生菓子は、どこか懐かしさを感じさせます。このお菓子が誕生したのは、約半世紀前。ちょうど野焼祭の歴史が始まる少し前のことでした。祭りの名に因んで付けられた「ふじさわ野焼まつり」は商標登録をしてから50年、当時の思いをそのままに、このお菓子もまた歴史を刻み続けています。



店内にある野焼祭作品



所狭しと縄文グッズが並んでいる

縄文に魂を注いで
縄文グッズ

場所 いたう屋
藤沢町藤沢字町裏 43-3



岩偶クッキー

また、縄文時代の出土品に思いを馳せる「縄文焼き菓子」も。くるみ入りの「縄文ケーキ」や、優しい練乳の甘さが特徴の「岩偶クッキー」が、藤沢の歴史を美しく伝えてくれます。

文グッズ」と「縄文焼き菓子」です。縄文土器好きの店主が集めた「縄文グッズ」は多種多様で、作家に依頼したオリジナル雑貨も並びます。

自家製パンや焼き菓子、そして所狭しと並ぶ陶器や雑貨が訪れるたびに私たちをワクワクさせてくれる「いたう屋」。その中でも、ひととき目を引くのが「縄



縄文ケーキ(左)は縄文土器をイメージ

オリジナル縄文グッズ多数



各商品は、店舗で購入可能



この椿の移植に深く携わったのが、後に藤沢野焼祭の実行委員長も務めることとなる皆川洋一さんです。



皆川 洋一さん

本来、椿は温暖な地で育つ植物です。当時、専門家からは「右手の寒さでは育たない、もらっても無駄だ」と厳しい声もありましたが、皆川氏は「塩野先生の想いをどうしても藤沢に根付かせたい」という一心で動きました。

移植が決まると、地元の有志が秋川市（現・東京都あきる野市）ヘトラック2台で向かいま

一方、皆川さんは「俺はベコ（牛）飼ってるから行かなかったけど」と笑いながら当時を懐かしみます。家業を守りながら地元で到着を待った皆川さんたち「留守番隊」には、江刺の緑化センターから「ビニールハウスを準備して育てたほうが良い」との助言が届いていました。しかし、皆川さんたちはあえてハウスは用意しませんでした。

「藤沢は暖かい土地だから、きっと大丈夫だ」その言葉通り、皆川さんたちは藤沢の豊かな日照と地力を信じ、まずは畑を借りて丁寧に「敵

（うね）立て」を行い、そこへ苗木を迎え入れました。厳しい予測をよそに、藤沢の土で健やかに育った椿は、その後、満を持して現在の椿園へと移植されました。人々の手で守り抜かれたこの椿園は今、野焼祭の魂を未来へと繋ぐ、かけがえのない聖地の一つとなっています。

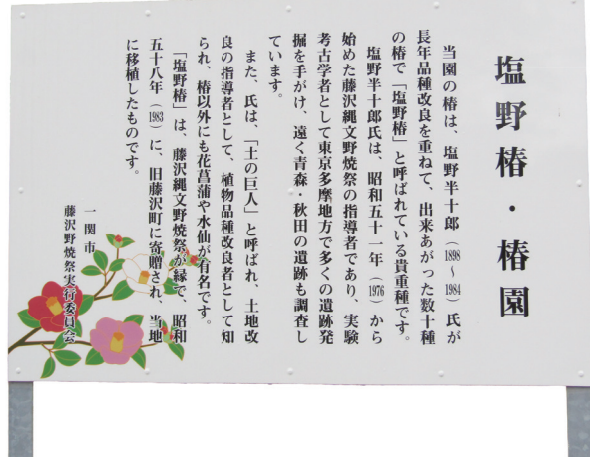
実行委員長として祭りを支え、また一人の生活者として土と共に生きてきた皆川さんたちの情熱は、毎年春に咲き誇る紅色の花の中に、今も力強く息づいています。

塩野椿・椿園

当園の椿は、塩野半十郎（1888〜1941）氏が長年品種改良を重ねて、出来あがった数十種の椿で「塩野椿」と呼ばれている貴重種です。塩野半十郎氏は、昭和五十一年（1976）から始めた藤沢縄文野焼祭の指導者であり、実験考古学者として東京多摩地方で多くの遺跡発掘を手がけ、遠く青森・秋田の遺跡も調査しています。

また、氏は、「土の巨人」と呼ばれ、土地改良の指導者として、植物品種改良者として知られ、椿以外にも花菖蒲や水仙が有名です。「塩野椿」は、藤沢縄文野焼祭の縁で、昭和五十八年（1983）に、旧藤沢町に寄贈され、当地に移植したものです。

一問市 藤沢野焼祭実行委員会



塩野半十郎が愛した縄文椿

情熱が守り抜いた、たった一つの「絆の椿園」

塩野半十郎椿

場所 塩野椿園
藤沢町黄海東深萱

Google map



昭和59年8月、第9回野焼祭。その最高賞は、ある人物の名を冠した「塩野半十郎大賞」へと生まれ変わりました。

モデルとなったのは、昭和50年に古代縄文式野焼きを提唱し、祭の誕生に尽力した考古学者の塩野半十郎氏です。

長年審査員も務めた塩野氏の功績を称え、その名が刻まれることとなりました。

祭りの開催時、病床にあった塩野氏は参加が叶わず、翌月に逝去されました。

しかし、塩野氏が藤沢町に贈り、自ら品種改良を手がけた「塩野椿」は、今も深萱（ふかがや）で4月上旬に美しい花を咲かせています。





情熱が灯す「縄文の炎」
野焼祭、開催までの軌跡



熱意が紡ぎ出す「非日常」への第一歩

野焼祭の準備は、新緑まぶしい5月に幕を開けます。第1回実行委員会はその年の構成が固まり、巨大な祭りの歯車が動き出すのです。大会長や実行委員長を筆頭に、会場設営から、救護警備に至るまで、多岐にわたる専門部が結成されます。それぞれの役割は違えど、見据える先はただ一つ。来場者に「最高の光景」を届けること。その一点に向けて、プロフェッショナルな体制が整えられていきます。

「未来」を灯す、五百の想い

令和7年度、野焼祭は新たな一歩を踏み出しました。初の試みとなる共通テーマは「未来」。希望や進化、夢……。多様な想いを込めて応募された作品は、実に500点を超えました。応募者の名簿には地元・一関だけでなく、首都圏や東北各県の名も連なります。震災を越え、時代を越え、野焼祭が全国から愛される祭りへと成長したことを、並んだ「未来」の作品名が証明しています。

猛暑と雨を越え、築かれる「聖地」

野焼祭の土台を支えているのは、地域住民・地元企業・一関市による固い結束の力です。



町政時代から半世紀近く続くこの伝統は、平成23年の合併後も変わることなく、地域協働の熱い地域づくりの精神によって、大切に守り抜かれています。

祭りが大きく動き出すのは、夏の日差しが鋭さを増す7月末。

「炎」がデザインされたのぼり旗が町内を彩り始めると、見慣れた日常の景色

は一気に祭りムードへと塗り替えられていきます。

会場となる藤沢運動広場では、この時期から本番を逆算した会場づくりが始まります。

作業が佳境に入る8月、現場を襲うのは連日35度を超える猛暑です。逃げ場のない炎天下、陽炎が立つ広場で、参加者は共に汗を流し、搬入作業やテント設営に奔走します。

開催が近づくにつれ現場の活気は加速し、設営と誘導それぞれの役割に分かれ、作業は急ピッチで進められます。

彼らを悩ませるものは夏の空模様です。丹精込めて築いた窯を守るため、ブルーシートを手に入れた窯を駆け巡ります。この「雨との戦い」は、まさに野外イベントならではの攻防です。

人々の汗と祈りが深く染み込んだ運動広場は、設営が進むごとに、ただの広場から魂を揺さぶる「聖地」へと姿を変えていくのです。



繋
-ツナグスタイル-
style

**町を挙げての総力戦。
重機の轟音と、職人の誇り。**

「縄文の炎」組立



一本の木から祭りの象徴へ



協力してテントを組み立てる



丸太で作られたテーブルと椅子を設置



雨の中手早く作業していく自治会担当者



窯作りの大まかな部分はバックホーで

一夜限りの「縄文の聖地」

本格的な活動が始まる8月上旬。整えた土台を受け継ぐように、地元の各建設会社が現場へと入ります。ダンブやバックホーを操る精鋭たちの動きは、まさに阿吽の呼吸。流れるような連携で土を運び、実行委員会で練り上げた設計図を、寸分狂わぬ精密さで現実の「窯」へと築き上げていきます。

この窯の設計には、過去の失敗や試行錯誤から得た知見が凝縮されています。しかし、火を入れてから焼き上がりがどうなるかは、二日目を迎えるまで誰にも分かりません。この予測不能な「自然との対話」こそが、野焼祭の醍醐味でもあります。

会場中央にそびえるシンボル「縄文の炎」の組み上げは、まさに圧巻の一言。当日の「火入れの儀」から終わりまで轟々と燃え続けても決して崩れぬよう、職人はチェーンソーで丸太に溝を掘り、上下の重なりをミリ単位で調整し続けます。

匠の技に支えられた丸太は、祭りの終わりまで凍とした存在感を放ち続けます。組み上げが完了し、燃料となるバタ材が搬入されると、会場の熱気は一気に非日常の祭りムードへと押し上げられます。

現代に甦る縄文の村と炎の番人

祭り当日、満を持して特別なライトグリーン टीシャツに身を包んだ「焼成員（じょうせいいん）」が登場します。

各自治会から任命された彼らは、揺めく炎を囲み、慣れた手つきでバタ材を投入していきます。窯の中にある「作品」を最高の状態に焼き上げるのは、焼成員と焼成指導員の腕の見せどころ。

汗を流し、真剣な眼差しで炎と対峙する彼らの一連の仕事こそ、野焼祭の熱気を絶やさぬ「現代の縄文人」そのものです。



当日の焼成員



音響システムの土台組立



また、祭りの高揚感を演出する音響システムも、プロの技が光る重要な要素です。担当者がたった一人で、平面的な骨組みを瞬く間に立体的な櫓へと組み上げていく様子は、眺めているだけでも壮観です。

窯が出来上がると各自治会が集結し、

夫婦で営む菓子店

ほしのほほえみ

住所 藤沢町増沢字上久手 51-1

Instagram



— お店を始めたきっかけを教えてください

両親が営む農地で採れる小麦や地元の果物を使ってケーキ屋やカフェを開く夢があり、神戸からUターンしました。始めは農業を手伝っていましたがコロナ禍で継続が難しくなり、準備していたケーキ屋を現在の形でオープンしました。

— お店のこだわり（コンセプト）は？

季節毎に地元の旬のフルーツを積極的に取り入れています。生産者と相談しながら、どの季節に合うか考えながら使用しています。

— 藤沢の魅力はどんなところですか？

人と人とのつながりが強く、地域全体で助け合う文化があることが魅力です。イベントなどを通じて、互いに声をかけ合い、盛り上げていく温かさがあります。

— 今後の目標は？

ゆくゆくは、ケーキ部門を縮小し、カフェを開きたいです。また、キッチンカーであちこちにイベントに出店も考えています。できるだけ新鮮なものをお客さんに提供できたらいいですね。



カフェ & 洋菓子店 藤沢の魅力

藤沢で店を始めたきっかけと、今後の目標

町内には数年前から新しくカフェやお菓子屋さんオープンしています！気になることを取材しました。

ヴィーガン焼き菓子

うんぬん

住所 藤沢町黄海字白石 86

Instagram



— お店を始めたきっかけを教えてください

「いずれ自分の場所」を持ちたいという思いがあり、当初は別の場所で開業を考えていましたが、最終的に夫の両親が提供してくれた元養蚕小屋をリフォームしました。場所探しに苦労した分、お店を持った喜びはひとしおです。

— お店のこだわり（コンセプト）は？

卵・乳製品不使用で地元や旬の季節の野菜・果物など身近にあるものを使って「毎日食べてもいい」「毎日食べたくなる」ようなお菓子を目指しています。

— 藤沢の魅力はどんなところですか？

自然豊かで人が優しいのが最大の魅力です。農作物も豊富で「野焼祭」のような昔ながらのお祭りがあることにも魅力を感じています。地域に見守られている安心感があります。

— 今後の目標は？

この場所で長くお店を続けることが一番の目標です。また、お店を通して地元の人たちに伝えられたりとか、若い世代の方とかに何か伝えられることとか、繋げられることがあったらいいなと考えています。

ドッグランのあるカフェ

ガーデンカフェ Kirara

住所 藤沢町新沼字石合 30-1

Instagram



— お店を始めたきっかけを教えてください

以前はお店が立ち並ぶ場所でしたが、空き地になり寂しく感じていました。この場所を「藤沢の顔として美しくしたい!」という思いが原点です。庭が好きなので当初の「公園」という構想がありましたが、管理の問題がありより本格的な「カフェ」としてスタートしました。

— お店のこだわり（コンセプト）は？

みんなが集える居心地の良い場所を目指しました。ベンチを置いたり芝生を敷いたり、テラス席など自然に触れられる空間にこだわっています。

— 藤沢の魅力はどんなところですか？

地域にまとまりがあり住民同士の繋がりが強いことですかね。みんなが持つ「良い発想」が素晴らしいと思って、一緒になにかできたらと考えています。

— 今後の目標は？

アフタヌーンティーの提供や、都会で流行っているメニューを取り入れ、地域に新しい文化を発信したいです。将来的には、地域の交流の場としてイベントなどを開催し、藤沢をさらに盛り上げていきたいです。

方言で遊べる
カルタ機能付き



おかしいな
気づけばくっ下
びっこたっこ

一関市藤沢市民センター
で遊べます



地名クイズ

何個読める？藤沢の地名

藤沢地区 -ふじさわ-

- ① 丑子淵 (うすこぶち)
- ② 大母 (おおは)
- ③ 茂竹 (しげたけ)
- ④ 罫ヶ森 (とやもり)
- ⑤ 馬立 (またて)
- ⑥ 古川 (ふか)
- ⑦ 古 (ふる)

新沼地区 -にいぬま-

- ① 荷積場 (につみば)
- ② 粕灰 (かすばい)
- ③ 宇名田 (うなだ)
- ④ 野々田 (ののた)
- ⑤ 百目木 (どうめき)
- ⑥ 芦替田 (あしがえだ)
- ⑦ 九十村 (くじゅうむら)
- ⑧ 下久手 (しもきゅうて)
- ⑨ 十二木 (じゅうにき)

黄海地区 -きのみ-

- ① 河吉 (かよし)
- ② 下川原 (しもがわら)
- ③ 八景下 (はっけした)
- ④ 八反 (はったん)
- ⑤ 深田和 (ふかだわ)
- ⑥ 山中 (やまちゅう)
- ⑦ 衣井沢山 (きぬいさわやま)

徳田地区 -とくだ-

- ① 名生城 (ないきじょう)
 - ② 大望沢 (だいぼうざわ)
 - ③ 罫 (とや)
- ### 西口地区 -にしぐち-
- ① 六十里 (ろくじゅうり)
 - ② 西小戸沢 (にしおどさわ)
 - ③ 切付 (きつけ)

本郷地区 -ほんごう-

- ① 葉山平 (はやまひら)
- ② 平蔵 (ひらわらび)
- ③ 粉香木 (こなこうぎ)

保呂羽地区 -ほろわ-

- ① 荻萱 (かるかや)
- ② 嶺沢 (みねさわ)
- ③ 登戸沢 (のぼとぎわ)

大籠地区 -おおかご-

- ① 保登子 (ほどこ)
- ② 大白 (おおじら)
- ③ 左利沢 (ひだりさわ)
- ④ 天ノ穴 (てんのあな)

読めそうで読めない地名。みなさんは
いくつ読めましたか？藤沢町には他にも
素敵な地名がたくさんあります。名前の
由来を求めてドライブに出掛けてみるの
も楽しいかもしれませんね ☺

身体部位の方言について

◇弾力のある部分

「たぶ」が付く

「方言」ケツたぶ (おしり) ほったぶ (頬)
みみたぶ (耳)

◇堅く湾曲した部分

「かぶ」が付く

「方言」ひじゃかぶ (膝かぶ)

◇堅い部分

「こぶ」が付く

「方言」ひてあこぶ (額こぶ)

藤沢の方言



我がふるさと藤沢が生んだ小説家 楡周平氏の「サンセットサンライズ」は映画になり、地元弁満載で、普段藤沢で使っている方言が出てきていた。例えば「食え」は「け」、「おだづもっこ」は「お調子者」思わず吹き出ししてしまった。そこで今回は藤沢の方言について紹介することとする。

基本動詞について考察してみる。例として「見ざる、聞かざる、言わざる」所謂三ざるについて調べてみた。

◇見る

みる【見る】

「方言」みる (基本標準語と同じ)

みた【見た】

「方言」みだ (濁音となる) みだおん・みだっ
ちゃ (接尾語おん、っちゃがつくこともある)

◇お調子者

「方言」おだづもっこ

「ふげける」は「おだづ」と言う。「ふげけるな」は「おだづな」となる。

みなさい【見なさい】

「方言」みらい (動詞+らい。らは最後の動詞の音で変化する)

みてみなさい【見てみなさい】

「方言」みでみらい

みたことがある【見たことがある】

「方言」みだつた (動詞+つた) みだつたおん (接尾語おんがつくこともある)

みたことがあった【見たことがあった】

「方言」みだつたつた

◇聞く

きく【聞く】

「方言」きぐ (濁音となる)

きいた【聞いた】

「方言」きいだ、きいだおん、きいだりちちや (接尾語おん、ちちやがつくこともある)

ききなさい【聞きなさい】

「方言」きかい

きいてみなさい【聞いてみなさい】

「方言」きいでみらい

きいたことがある【聞いたことがある】

「方言」きいだつた

きいたことがあった【聞いたことがあった】

「方言」きいだつたつた



んだっけか？

◇言う

いう【言う】

「方言」ゆう、いう

いった【言った】

「方言」ゆつた、いった。ゆつたおん、ゆつたつちや

いいなさい【言いなさい】

「方言」ゆわい、いわい

いったことがある【言ったことがある】

「方言」ゆつたつた、いったつた

いったことがあった【言ったことがあった】

「方言」ゆつたつたつた、いったつたつた

特徴的な方言について考察

◇苦勞する

「方言」うぎねはく

「うぎね」は昔水田に入るとききの履物で、大変苦勞して農作業したことから、苦勞することを「うぎねをはく」と言う。

◇怠ける

「方言」かばねやみ

「かばね」は「体」「やみ」は「病み」ということで、怠け者を「かばねやみ」と言う。